

報告

地域社会人・留学生との peer learning による グローバル社会に対応できる人材育成と教養教育

大橋 眞, 齊藤 隆仁
徳島大学教養教育院

要約 : グローバル社会に対応できる人材育成が, 日本の大学教育改革の課題となっている。これからの地域社会のあり方を考える上で, グローバル化によって地域社会に起こってくる諸問題は, 避けて通ることが出来ない課題である。そのために, グローバル人材育成において, これからの地域社会のあり方を体験的に考える場をもつことが必要である。徳島大学では, 2009 年より教養教育において大学教育に造詣の深い地域社会人の協力のもとに, 様々な peer learning 形式の授業を実施している。本稿では, 地域社会人や留学生と共に, 地域社会の諸課題をグローバルな問題と関連づけて考えるグローバル人材育成への取組の成果とその課題について検証した。取組により, グローバル社会に対する視野が広まる効果がみられた。今後は, 同様の取組のネットワーク形成を進めることにより, グローバル教育の充実が期待できる。

(キーワード: グローバル人材, peer learning, 地域社会人, グローバル教育, 留学生)

Cultural Education for Fostering Citizens who can Operate in a Global Society through Peer Learning Local Citizens and International Students

Makoto Ohashi and Takahito Saito
Institute of Liberal Arts and Science, Tokushima University

The development of people who can cope in a global society has become an important issue in the innovation of education at Japanese universities. While we consider the existence of the local society or community, we cannot avoid the topic of the various problems that will arise at the local level due to globalization. Thus, in regards to the development of "global citizens", it is necessary to create opportunities where people can consider how the local society exists. Since 2009 we have been holding peer-learning style classes in the General Education field at Tokushima University with people from the community who have a strong interest in university education. In this paper, with the cooperation of people from the local community and international students, we examine the effects and problems concerning creating "global citizens" who can think about the connection between topics in local society and global problems. As a result of our study, we discovered that this style of peer learning was effective in broadening the view of the participants towards a global society. In the future, we can expect an improvement in global education by continuing similar projects related to network formation.

(Key words: study, global citizens, peer learning, people from the local community, global education, international students)

1. はじめに

グローバル社会に対応できる人材育成が, 日本社会の課題となっている¹⁻³⁾。グローバル人材の育成を目的としたグローバル教育の充実, 今日

の大学教育において必須の課題であり, そのための方策を探る動きが加速している。教養教育として, グローバル教育を充実させるためには, グローバル化についての理解を深めることが重要で

あろう^{2,4)}。グローバル化の最も根本的な要因は経済に関する問題であるが、環境、医療、農業、工業など実に様々な分野に影響が及ぶ。さらに、紛争や地域経済など地域社会の基盤にも大きな影響を与える問題であるために、これからの地域社会のあり方を考える上で、グローバル化による諸問題は、避けて通ることが出来ない課題となってきた。そのためにグローバル人材とは、グローバル化に伴って起こる地域の課題について、その課題発見と問題解決のための対策に関するアイデアを出すことができる人材という見方も出来る。

本稿では、徳島大学教養教育で実施している学生と地域社会人・留学生がお互いに議論する形式の授業におけるグローバル人材育成への取組の成果とその課題について検証する。

2. 取組について

徳島大学では、2009年より大学教育に関心の高い地域社会人、学生（留学生を含む）及び教員が同じテーブルについて、グローバルな課題に関して議論をするという形式の授業を導入している⁵⁾。現在は、次のような授業で、学生・地域社会人・留学生がコミュニティー（学びのコミュニティー）を形成して、グローバルな社会問題や、これに関連する地域の課題について、毎回の授業において議論をしている。これらの授業におけるトピックスを大きく分類すると、「グローバル化と地域医療」「地域社会におけるグローバル化の課題」「グローバル化と地域ボランティア活動」「グローバル化社会におけるコミュニケーション」「地域社会における異文化交流」「日本と海外の地域社会の交流」などのテーマになる。

2.1. グローバル化と地域医療

グローバル化に伴って、医療の形も変わることが予測されている。「グローバル化時代の地域医療を考える」「グローバル社会に必要な地域医療とは」では、グローバル化する社会において、地域医療の課題とこれからの地域医療のありかたについて、現代医療の抱えている問題を含めて議論をしている。留学生から、母国の医療の現状と

課題に関する報告がされる場合もある。

2.2. 地域社会におけるグローバル化の課題

グローバル化に伴って、地域社会においてもグローバルな話題を常に情報を取り入れながら、その課題にどのように向き合っていくのかということについて、社会で共有する必要性が高まってくると予測される。「グローバル時代の教養を考える」「グローバル社会に必要な教養とは何か」においては、徳島大学に学ぶ学生と地域社会人が、グローバルな社会問題、国際的な課題などについて議論しながら、これからのグローバルな社会問題を学ぶ場としている（図1A）。

2.3. 地域社会における異文化交流

多文化共生社会としての地域社会では、異文化交流が日常的になると予測される。「異文化交流から学ぶグローバル化」「異文化交流体験から何を学ぶのか」においては、留学生と異文化交流をしながら、お互いに何を学ぶべきかを考えるための体験型グループ学習を行っている（図1B）。

2.4. グローバル化と地域ボランティア活動

グローバル社会においては、地域社会のボランティア活動の必要性が高まってくると予測される。「ボランティア活動から学ぶグローバル社会と地域社会」「ボランティアリーダーと語る地域社会」においては、地域社会や海外で活躍するボランティアグループの活動を紹介して、徳島大学に学ぶ学生と地域社会人が、その意義についての議論をおこなっている（図1C）。また、地域社会における起業経験から、グローバル社会との関わりについての話題も取り上げて、議論をしている。

2.5. グローバル化社会におけるコミュニケーション

地域社会においても、グローバル化に伴って多文化共生社会になっていくと予測されている。異なった言語や、様々な文化背景を持った人たちが同じ地域で生活するという状況になると、地域社

会の円滑な運営のために、地域社会に生活する住民全体が、グローバルなコミュニケーション力をつける必要性が出てくる。「Global Communication - peer learning with foreign students -」「Global Communication - peer learning with foreign students and citizens -」においては、徳島大学に学ぶ留学生と地域社会人が、毎回異なったテーマについて、英語でコミュニケーションを行いながら、お互いの地域文化を学ぶ場としている。また、医療問題について、医学部、歯学部の学生を対象として、留学生や地域社会人と、英語で議論をする授業もある(図 1

D)。

3. 結果と考察

3.1. 取組の成果について

授業を受講した学生は、これらの授業を通して、グローバル化について、様々な見方をするようになってきた。この取組に関係する授業の総括としての学生の意見を紹介したい(表 1)。授業の前には、グローバル化と国際化^{6,7)}についての区別がついていないケースも多く見られた²⁾。しかし、授業が進むにつれて、グローバル化社会の課題について議論を進めていくと、グローバル化するこ



図 1. 学びのコミュニティ型授業における学生・地域社会人・留学生による peer learning
 A. 「地域社会におけるグローバル化の課題」、B. 「地域社会における異文化交流」、C. 「グローバル化と地域ボランティア活動」、D. 「グローバル化社会におけるコミュニケーション」

表 1. 学びのコミュニティー型授業の学生・地域社会人・留学生による peer learning に参加した学生の感想 (一部抜粋)

<p>A. 15回の授業を通し社会、金融、戦争、経済などについて話し合った。今まで生活してきた、このような内容を学生、留学生、成人の方と真剣に話し合ったことがなかった。そのため、授業内で意見を交換し、新たに学ぶことがたくさんあった。(「地域社会におけるグローバル化の課題」総合科学部1年)</p> <p>B. このグローバル社会と医療の授業は単に先生の話聞くだけでなく、学生や社会人による意見も聞けたことや、実際に地域医療をしている先生の話も聞くことができたことがよかったと思う。また、自分の意見を述べる機会も多く、とてもよい経験になった。この授業での経験や学んだ考えかたはこれからの人生で生きていくと思うので、活かしていきたいと思う。(「グローバル化と地域医療」薬学部1年)</p> <p>C. 今まで受けてきた授業から、ボランティアをするうえで必要な精神とは何か、何をすることがボランティアに繋がるかを学んできた。授業では、会社を起業して成功を収めた人や、ボランティア団体の一員として活躍されている人、健康に生きるすべを知る人などにゲストとして来ていただいた。ゲストの方々の境遇はバラバラではあったが、必ず共通点があり、すべてこの授業で学ぶべきことに関係するものだった。それが、チャレンジすることについてである。(「グローバル化と地域ボランティア活動」総合科学部1年)</p> <p>D. 授業では徳島大学の学生だけでなく、社会人の方もいらっしやる中でディスカッションが毎回行われた。今までの授業を通して、共産主義と資本主義、民主主義と封建主義のメリットとデメリットは何かをそれぞれ意見を出し合った。(「地域社会におけるグローバル化の課題」総合科学部1年)</p> <p>F. この授業では、社会人の方々や留学生の方の普段聞くことのできない様々な意見が聞けて、とても有意義な時間になりました。自分の知らなかった知識もたくさん身につけ、受ける前と受けた後では、現代医療に関する考え方がとても変わりました。(「グローバル化と地域医療」生物資源産業学部1年)</p> <p>G. 授業は私にとって大学の前期の授業の中で唯一周りの人の意見を聞いたり、私自身の意見を発表したりすることのできる授業でした。先生の話や学生の意見だけでなく、社会人の方々からの意見は知らないことや、日常生活においてためになることが多いため交流会のような感覚でした(「グローバル化と地域医療」生物資源産業学部1年)。</p> <p>H. 私より留学生の方がよく知っていて、日本の文化を逆に教えてもらって、まだまだ自分は足りないところがあるなと思った。普通は日本人が日本の文化について説明するはずなのに留学生から日本文化を覚えてもらうっていうのは少し恥ずかしいと思うから、そうならないようにたくさんの日本の文化を理解していかなければならないと思った。(「地域社会における異文化交流」理工学部1年)</p>
--

とによるプラスとマイナスの両面があることに対する気づき生まれ、その結果として、グローバル化という社会現象そのものに対する様々な見方²⁾が出来ようになってきたと考えられる(表 1A-F)。このような過程を通じて、グローバル社会に対応できる人材についての考え方につい

ても、単に語学力の問題でなく、多様な見方が出来るようになってきたと推察される(表 1D-H)。最近の研究により、持続可能な社会に対する考え方にも、様々な物事の捉え方があることも、次第に明らかになってきた^{3,4,7)}。この授業に参加した地域社会人や留学生も、グローバル化社会に対し

て、多様な考え方ができるようになった(地域社会人・留学生に対する聞き取り調査による)。

3.2. グローバル人材に対する考え方

グローバル人材に関して、公的な機関においては、つぎのような定義や考え方が示されている。

◆グローバル化が進展している世界の中で、主体的に物事を考え、多様なバックグラウンドをもつ同僚、取引先、顧客等に自分の考えを分かりやすく伝え、文化的・歴史的なバックグラウンドに由来する価値観や特性の差異を乗り越えて、相手の立場に立って互いを理解し、更にはそうした差異からそれぞれの強みを引き出して活用し、相乗効果を生み出して、新しい価値を生み出すことができる人材(2010年4月経産省 産学人材育成パートナーシップグローバル人材育成委員会)

◆世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間(2011年4月経産省 産学連携によるグローバル人材育成推進会議)

◆要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力
 要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
 要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ
 (2011年6月文科省 グローバル人材育成推進会議)

◆我が国の現在の状況に鑑みれば、グローバル化の加速する社会において活躍できる人材の育成の重要性が増していることは論を俟たない。政府のグローバル人材育成推進会議も、層の厚いグローバル人材が必要だと指摘しており、そ

の具体的な育成の目標と方策を示しているが、そのために高等教育が果たすべき役割は極めて大きい。グローバル人材の土台として重要なのは、我が国の歴史や文化に関する知識や認識、多元的な文化の受容性、あるいは前述のような認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力である。これらはグローバル化による社会経済構造の変化に対応するための全ての国民の課題でもある。(2012年8月中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」)

◆グローバル化が進行する社会においては、多様な人と関わり様々な経験を積み重ねるなど「社会を生き抜く力」を身に付ける過程の中で、未来への飛躍を担うための創造性やチャレンジ精神、強い意志を持って迅速に決断し組織を統率するリーダーシップ、国境を越えて人々と協働するための英語等の語学力・コミュニケーション能力、異文化に対する理解、日本人としてのアイデンティティなどを培っていく視点も今般一層重要になっているものと考えられる。(2013年6月文科省「第2期教育振興基本計画」)

◆グローバル化に対応した人材育成
 ・拠点大学の形成・学生の双方向交流の推進(日本人学生の海外留学の拡大、留学生の戦略的獲得)などによる、大学の国際化の飛躍的推進
 ・入試における TOEFL・TOEIC の活用・促進、英語による授業の倍増
 ・産学協働によるグローバル人材・イノベーション人材の育成推進(「リーディング大学院」など産業界との共同による大学院教育機能の抜本的強化)
 ・秋入学への対応等、教育システムのグローバル化
 (2013年6月文科省「大学改革実行プラン」)

3.3 グローバル教育における2つの視点

グローバル化という現象についての捉え方が大きく2つあると考えられる。一つは、地球レベルでの競争社会という現実を重視する考え方

ある。この考え方の根底には、経済の問題を地球レベルで考える必要性が、今後さらに高まってくる可能性がある。もう一つは、地球市民的な共生社会の実現というような理想論的な考え方である。その結果、グローバル人材について、つぎに述べる 2 つの視点(グローバル人材に対する視点 1 及び 2) が混在している。そのために、一般的にわかりにくい内容になっていると考えられる。このようにグローバル化という現象をどのように捉えるのかによって、考え方が異なるように思われる。歴史的な観点から、これらの考え方を整理する必要があろう。

◆グローバル人材に対する視点 1 (グローバルな競争社会で活躍する人材の視点)

グローバルなレベルで競争社会を捉え、国境を越えたグローバルな競争社会やグローバルな課題に貢献できる人材を育成するという立場である。現代社会においては、グローバル企業が活躍し、地球レベルの市場を形成している。また、グローバルな環境破壊、金融危機、戦争、紛争、新興感染症などの諸問題にも直面している。これらの社会での生き残りや課題解決には、グローバルな視野に立って世界の最前線で、問題解決にあたる人材が必要になる。また、地域社会においても、これらの問題の影響が様々な形で及ぼされるために、その立場に立って物事を捉えて行動できる人材が必要となる。

◆グローバル人材に対する視点 2 (地球市民の育成：共生社会の視点)

グローバル化に伴って、国境を越えて様々な人々や物が行き交う時代になってくる。このような時代には、多様な価値観や文化を持った人々が共存する社会になっていく。そのためには、言語能力を始めとしてコミュニケーション力が必要になってくる。また、異文化を理解して、受け入れる寛容さも必要になってくる。そのためには、コミュニケーション力や異文化に理解のある人材を育成する必要がある。グローバル化という現象を受動的に捉えている傾向が強い。

人材育成会議などで想定されているグローバル人材は、競争社会を想定している。グローバル化という現象に対しては、必然的に受け入れながらも、その中で生き残る策を積極的に出して、行動できる能動的な人材である。グローバル化という現象そのものに抵抗して行動できる人材と、グローバル化現象そのものは受入ながらも、グローバル化社会での競争の中で生き残りをかけて行動できる人材とは共通する点もある。しかしながら、グローバル化という現象の捉え方が、両者の間で異なっている。大学の教養教育では、グローバル化という現象そのものについて、原因と結果に分けて、その意味に関する理解を促すような教育を、さらに充実させていく必要があろう。

このような競争社会をイメージしたグローバル人材育成とは異なって、一般的に大学教育におけるグローバル化人材の育成は、地球市民としてのグローバル人材をイメージしていることが多いように思われる。限られた授業時間で、学生たちにグローバルという現象に対する理解を深めさせることは、容易ではない。そのために、入門的な位置づけとして、英語力や異文化理解などを主としたコミュニケーション力の育成を中心とした内容になっているという面があると思われる。

本取組においては、「グローバル化と地域医療」「地域社会におけるグローバル化の課題」「グローバル化と地域ボランティア活動」の授業で、グローバル人材に対する視点 1 (グローバルな競争社会で活躍する人材の視点) の育成を目標としている。その一方で、「グローバル化社会におけるコミュニケーション」「地域社会における異文化交流」「日本と海外の地域社会の交流」の授業では、グローバル人材に対する視点 2 (地球市民の育成：共生社会の視点) の育成を主眼に置いている。地域社会人の中には、例外的に両方の授業で活躍する人もいるが、大多数の地域社会人は、どちらか一方の授業で每学期参加するケースが多かった。この事実は、グローバル化社会に対する捉え方が、一般社会では、前述の 2 つの視点の中で、どちらか片方だけを中心にしてイメージしている人が多いという事実を反映しているように思われる。

大学教育に造形の深い地域社会人は、これまで社会の中で活躍するなかで、様々な経験をしてくれている。グローバル化に関する問題点についても、経験を通じて様々な角度から分析して、自分の意見を持っており、いつでも違った角度からでも、自分の考えを表明できる。授業において、学生はこれらの社会人の様々な考え方に触れることにより、視野を広げることの意義を感じ取るようになる。これにより、新しいことにチャレンジするための行動を起こすモチベーションにつながっていく。これは、中教審答申の「多様な人と関わり様々な経験を積み重ねるなど「社会を生き抜く力」を身に付ける過程の中で、未来への飛躍を担うための創造性やチャレンジ精神、強い意志を持って迅速に決断し組織を統率するリーダーシップ」に関する能力育成に貢献できると考えられる。

また、この授業に参加する社会人にとっても、このような形で次世代の学生の教育に貢献できる機会があること自体が、さらなる生涯学習のモチベーションになる⁹⁾。学生からの発言や、同じ授業に参加する他の社会人からの意見を聞くことも、peer learning 型の生涯学習として、有用であると考えられる。また、このようなモチベーションを持った社会人と共に学ぶことが、学生にとっても良い刺激となるという正の循環が実現する。

この取組みが始まった 2009 年は、地域社会人と学生との peer learning であったが、次第に留学生も授業に加わることが多くなってきた。留学生の母国での地域の課題を紹介してもらい、日本の現状と比較することや、留学生や地域社会人と共にグローバルな課題に対する議論をすることにより、より広い視野の育成につながる。

このような形で、地域社会人や留学生との peer learning が、教養教育におけるグローバル人材の育成に有用であることがわかった。このような形式の授業に参加する地域社会人が増えることにより、地域社会におけるグローバル人材育成にもつながっていくことが期待される。このようにして、大学の地域貢献や、留学生を介しての国際連携教育にも貢献できる。大学を介した地域社会のネットワークが、グローバルに展開することによ

り、グローバル人材育成の社会基盤整備につながっていくことが必要であると考えられる。

今回の取組において目指しているグローバル人材育成は、主としてグローバル社会において地域社会で活躍できる人材である。ここでは、グローバル人材について、グローバル化社会を理解して行動できる人材と定義する。そのために、文科省などが掲げているグローバル人材とは、若干ニュアンスが異なったものになっている。しかしながら、グローバル人材育成の基盤となっているのは、自ら発信できる能力である。経産省や文科省が掲げる「文化的・歴史的なバックグラウンドに由来する価値観」「日本人としてのアイデンティティ」などは、地域社会の文化や歴史などが基盤となって、自身のアイデンティティが形成され、これが日本人としてのアイデンティティに繋がっていく部分が大きいと考えられる。そのために、地域社会を基盤としたグローバル教育は、重要な意味を持っていると思われる。地域社会の生涯学習を、グローバル人材育成と関連づけることは、あたらしい地域活性化の取組にも繋がりをうる。今回の取組に関わった学生が、地域社会人や留学生と共にグローバル社会に関連づけた地域活性化の意義を学ぶことが、今回の取組で目指しているグローバル人材育成の主要な柱の一つである。

今回の取組により、地域の大学の役割として、地域社会と共に学ぶという教養教育のあり方を提示する場としての機能があることを示すことが出来たと考えている。今後は、このような活動の輪を世界に広げて、ネットワークを形成することにより、地域とのつながりから、グローバル社会のあり方を考える教養教育を普及していくことが考えられる。これにより、学生は、世界の様々な地域社会から学ぶというグローバル教育の機会が増えていくことが期待される。これを実現するための具体的な方法として、インターネットを使った国際連携教育や、サマースクールやスタディーツアーによる短期の留学生の受け入れや、短期の海外大学訪問などが有効に機能すると考えられる。

謝辞

この取組にご協力いただいた徳島大学の学生、留学生並びに授業に協力いただいた社会人や、課外活動において体験学習の場を提供していただいた、地域社会の皆様に感謝する。

参考文献

- 1) 石渡嶺司・米澤彰純 大学教育と「グローバル人材」養成—その実態と課題について 日本労働研究雑誌 629: 68-82, 2012
- 2) 大橋 眞・胡 萌萌・入口幸子・間賀田 悠吾・齋藤 隆仁 グローバル化社会に向けた大学教養教育とは 大学教育研究ジャーナル 11, 117-124, 2014
- 3) 大橋 眞・齋藤 隆仁 グローバル教育の課題 「持続可能な開発のための教育」の視点から- 大学教育研究ジャーナル 12, 54-61, 2015
- 4) 大橋 眞・齋藤 隆仁 教養教育における持続可能な社会を目指す体験型学習 大学教育研究ジャーナル 13, 56-62, 2016
- 5) 大橋 眞 生涯学習と大学教育の融合から生まれる知の循環型社会構築—持続可能な社会に向けた地域の大学の課題—日本生涯教育学会年報 32, 227-244, 2011
- 6) 大学の国際化と地域貢献 文部科学省白書 2008 28-34, 2008
- 7) 太田 浩 大学国際化の動向及び日本の現状と課題: 東アジアとの比較から メディア教育研究 8 (1) S1-S12, 2011
- 8) 日本ホリスティック教育協会編, 持続可能な教育社会をつくる, せせらぎ出版, 2006
- 9) 大橋, 眞・中恵 真理子・光永 雅子・Fukuda Steve T. ・齋藤 隆仁・菊池 誠・香川 順子・廣渡 修一 大学教育改革と教養教育:地域社会人活用による知の循環型社会構築に向けて 大学教育研究ジャーナル 6:58 - 69, 2009